

# 北欧の旅から(1)

## ーランドレース種豚を訪ねてー

多田昌男

私はこのたび、岡山県の命により、わが国で話題になり幾多の夢と期待をもたれて輸入されている「ランドレース」種豚の飼養管理技術、枝肉検定方法等を修得のため、スウェーデン、デンマークの北欧畜産先進国の実情調査の旅に出て、数多くの新しいことを見聞して帰国しました。

以下、私の旅程に従って、ランドレースを主とした北欧畜産農業の実情を記し、これからの新しい乳肉利用時代の方途について感じたままを述べ、参考に資したいと思います。

### 1、北極廻りの旅

昨年10月19日午前9時15分、予定より12時間おくれて、SAS（スカンジナビア、エアライン、システム）機で東京国際空港を飛び立ち、北欧の旅に出発しました。私の乗ったSK988便DC8型機は定員128名に対し、38名の僅かなため、1人で3人分の座席を使用することができ、1万メートルの上空を一路北進を続けました。乗客の3分の1位は日本人であり、又振袖姿の清楚な日本人スチワードレス嬢1名で、未だ日本的な気分を味わうことができました。

10時30分頃から少しずつ機内は涼しさを加え、機外のジュラルミンに反射する強い太陽光線が眼にしみ、まるで変化の多い真白い雪山の上を飛んでいる感じでした。15時30分（現地時間10月18日20時30分）所要時間6時間15分で、夜のアンカレジ（アラスカ）に到着しました。丁度前夜に逆戻りしたことになります。積雪の空港待合室で約1時間休憩の後、再び機上の人となり、DC8型ジェット機は北極経由でデンマークのコペンハーゲン目指して、成層圏を時速約1000キロメートルのスピードで飛びました。4時間余り横になって眠っているうちに、朝の気配を感じて眼をさますと、日本時間19日21時頃右前方に朝のすがすがしい太陽を見ました。21

時40分頃北極の島々が見え始め、氷河が小さく、はるかに大氷原の中に数かぎりなく浮いていました。北極を過ぎますと、又前と同様雪山のような白雲の上をゆっくりと飛んでいる感じでした。

日本時間の10月20日午前1時15分（現地時間19日17時15分）所要時間8時間30分で、デンマークの首都コペンハーゲンに到着しましたが、現地はどんよりと曇った冬の夕方でした。ここで日本人とも別れ、現地時間20時発のSK414便でスウェーデンの首都ストックホルムに向いました。双発の小型機に20人余り、その中に日本人1人とは、何とも言えないわびしさでした。

所要時間1時間10分で、21時10分最終目的地ストックホルムの土を踏みました。予定より12時間おくれたにもかかわらず、スウェーデン農家連合会のノーベルグ氏と昨年4月まで倉敷におられたスウェーデルンド氏の出迎えを受け一安心しました。早速、夜のストックホルム市内を車で救世軍ホテルに旅装をときました。

思えば日本を飛び立って、地球の裏側まで15時間後には到着しているわけで、宇宙時代の今日とはいえ、時代の進歩にただ驚くばかりです。ソ連国内上空を通過できるようになれば、より一層時間は短縮されることと思います。

### 2、ストックホルムの印象

スウェーデンは立憲君主国で、面積449,687平方キロメートル、人口7,393,000人といわれ、日本とほぼ同じ位の面積に日本の10分の1程度の人々が住んでいます。首都ストックホルムは、人口799,000人、国の中央東海岸にある名古屋市位？の街と思われま。東京のように車と人の雑踏とは打って変わった静かな街で、古い建物が多く、ようやく新しい建築様式が町のあちこちに取り入れられつつあります。

スウェーデンは金属、機械、パルプ、鉄鉱石等を輸

## 岡山畜産便り 1962.02

出し、石油、石炭、繊維等を輸入しており、社会保障制度が行き届き、貧富の差が少ないと言われています。スエード族、デー族、ゴート族などが入りまじっているためか、頭髪は金髪、真白い紙、キツネ色、黒がかった髪と様々雑多で、身体の高さも私達日本人位の人、はるかに大きい人などいろいろです。

町を歩いて特に感じたことは、自転車の利用者が非常に多く、ちょっと道のほとりにおいて買物をしている婦人がよく見かけられました。歩行者は歩道を歩き、無理な横断は行なっていません。車の走る方向は日本と同様左側を走り、おい越しは右側になっています。

ストックホルムで最初の一泊を過ぎ、翌20日、まず最初にスエーデン農家連合会を訪ね、リリエノ氏からスエーデンにおける豚の概要と、これからの視察計画を相談した後、日本大使館の栗原氏を訪ね、次いでスエーデン教会本部のホルケ・ヴェールケ氏（彼は岡山市のスエーデン聖約教会牧師、クリスチャンソン氏の学友）の案内で、教会本部内を見せて頂きました。

スエーデンの豚は現在200万頭で、このうちランドレース種が75%、大ヨークシャー種が25%飼育されています。種豚の繁殖者は250戸の農家に限られており、このうち200戸が「ランドレース」、50戸が「大ヨークシャー」を純粋繁殖しております。豚の主産地は、国の南部地帯のため10月23日の月曜日から勉強にかかる予定で、21-22の土、日曜日はスエーデルンド氏宅で過ごすことになり、ストックホルムから北へ180キロの田舎、スカルプリングへ自動車を走せました。

スエーデンのキリスト教伝道は、日本とコンゴに力をそそいでいるらしく、教会本部では、コンゴの黒人伝道師とも握手を交わしました。

ストックホルムからスカルプリングへの途中、ストックホルムのはずれに、岡山教会最初のスエーデン人、ドクターサム・セルド氏を訪ね、三木知事さんのお礼の伝言をしました。同氏宅で日本の茶を馳走になり、三木知事寄贈の伊部焼の菊花1輪に日本の薫りを味わいました。

## 3、自動車の最高速度は無制限

スエーデンの初冬の暮れは早く、午後の5時頃には日が暮れます。ストックホルムからスカルプリングまでの道はすべてアスファルトで、自動車が4台並んでも十分とおれる位の道巾で、田舎に入っても広々とした直線道路が多く、道の両側に立ち並ぶ松と白樺の姿は雄大でした。

スエーデンに来て、まず最初に感じましたことは、道路の整備と使い分けの上手なことでした。自動車の最高速度制限はなく、その車の出せる能力一杯ということです。しかし危険な場所とか繁華な市街地では制限が加えられています。最高80キロから最低50キロの速度制限が行なわれており、50キロ以下の制限はありません。

私がスエーデン滞在中使った、スエーデン産ボルボは中型4人乗で、最高120キロまで出すことができますが、普通100-110キロで走っていました。丁度日本の最高速度の2倍で走るので最初は非常に早く感じましたが、なれてしまえば何ともありません。すべての自動車がこのような速度で走るのですから、



ドクターサムセルド氏と筆者、後のつぼは三木知事から同氏に贈られたもの

何といたっても道路の整備がなされていることです。日本のようなエクボの多い道路は田舎へ行ってもスエーデンでは見ることはできませんでした。田舎の末端まで殆んど舗装されており、舗装されていない道路は、少しのくぼみでも直ぐブルトラーザできれいに削られ整地されています。道に入れられた小石は直径1糎位に小さく砕石されていますので、削られた直後でも十分速力を出すことができ、事故も殆んどおきないそうです。

事故のおきないということは、道路が良いのは勿論ですが、運転者が交通規則を十分厳守しているか

## 岡山畜産便り 1962.02

らです。日本のような無理な運転は絶対行なわれていません。又道路の対面交通の使い分けがはっきりしていることです。

例えば、わき道或は細い道から広い道にでる場合は必ず一旦停車後、左右視界に入る車は2分でも3分でも待ってやり過してから、初めて進みます。お互に時速100キロから120キロで走っているのですから、このように慎重にして、はじめて事故が防げるわけです。しかし鉄道との交叉点においては一旦停車せず、ノンストップで通過します。この場合交叉点の点滅機によって見分けていますが、田舎で信号機のない交叉点では日本と同様一旦停車後、よくたしかめてから通過しています。

次に道路の標示方法が完全に行なわれていることです。アスファルト舗装道路には総て何百キロでも道の中央に黄色ペンキで、長さ1米の巾10糎位線が続き、左右の車の走る境界が標示されています。傾斜のある場所とか曲っている場所には、お互が左右へ入れないように連続線2本が標示されております。又速度制限区間では2本の黄色ペンキの長さ1米、巾10糎位の線が中央に標示され、道路脇の表示板には、制限場所とそれより400米位前に、400米先から何キロ制限であるかを予知するようにしており、この間で速度を落せばよいわけです。ですから速度制限区間は2本の中央標示線で知ることができます。

おい越し禁止区間も路面のペンキで知ることができ、運転者は厳重にこの標示を守っています。日本でもこの方法を採用して、運転者の再教育を行なえば、今よりは少しでも多く、事故を防止することが出来るのではないかと思います。

スウェーデンでは速力の速いものでは時速160キロもでる車もあるとのことですが、総ての自動車に万一の急停車に備えて、事故防止用のベルトが取付けられています。左側の運転者は左肩から右脇へ、右側の助手席は右肩から左脇へベルトをしめて高速力で走る快感は外国でなければ味わうことができません。

## 4、日常生活について

スウェーデンの日常生活のうち、まず食事関係についてみますと、主食は馬鈴薯でその他にパンが用いられてます。朝食(7時30分から8時)は簡単なもの、

の、昼食(12時から13時)は朝夕の中間程度、夕食(18時30分から19時)が1日のうちで一番御馳走になっています。馬鈴薯は昼食と夕食に用いられるのが普通で、農家と町との食事はあまり大差がなく、農家は1日3食、町では2食の人もあります。

食事の例をあげますと、毎食パン(又はトーストパン)、コーヒー(又は紅茶)、牛乳、ジャム(オレンジジャムおよび森でとれたイチゴジャム)、チーズ、バター等が付くのが普通です。朝はこの他にゆで卵がついたり、小麦のパンパン菓子にしたようなものに牛乳とビート砂糖を振りかけて食べます。昼はこのほかに少し御馳走が付き、夕食は馬鈴薯を主食にして肉ダンゴ、その他日本での洋食に類似したものが、その人の生活程度および好みによって食べられています。馬鈴薯は普通カワをむいたものをふかしたのですが、料理によってはコマ切りにしたものをバターでいためて食べています。又昼食として簡単に行なう場合は日本のケーキ類にコーヒーを飲んですませる場合がよくあります。とにかく日本では菓子として間食に食べるものが、スウェーデンでは食事として取られる場合が多くあります。2杯も3杯もコーヒーを飲んで砂糖分の多いケーキを沢山食べるのがスウェーデン人の好みかも知れません。

私はたまたま、スウェーデルンド氏の好意により、同氏宅でエルジ(Alg)の肉ダンゴと日本的なスキ焼で御飯の食事を1回馳走になりました。このエルジは英語でムース(Moose)といい、北米産の大鹿を意味しますが、スウェーデンも森にこの大鹿が住んでいて、時々農作物を食い荒して困るそうです。肉は脂肪が少ないためか、少々淡白な味がしました。1年のうちで10月の第2月曜日から金曜までの5日間、昨年は10月9日から13日の間は自由に狩りょうができ、その時の肉を食べさせてもらったわけです。

起床は普通5時30分から6時で、夜は20時から21時に就寝、会社は早出のところでは、7時から7時30分に出勤しますが、事務関係は9時から17時までとなっています。

勤務時間のうち、普通9時30分から10時までの30分間に各自持参の朝食を取り、12時から13時に昼食、13時から15時の間に15分間、各自持参の魔法瓶に入れたコーヒーを休憩室で飲みます。殆んど

## 岡山畜産便り 1962.02

の会社が土曜と日曜を休み、週5日勤務が多く、おそ出の勤務、早出の勤務があっても、夜は22時から翌朝4時までは休憩するのが普通です。

商店の勤務は9時から18時までで、平日は17時、土曜日は14時に殆んどの店が締め、日曜日は休みです。映画は19時から21時、21時から23時までの1日2回上映で、日本のように朝からやっているところはありません。又指定席以外で立見することはできませんから、よい映画であれば12時から発売されるキップを早目に買っておかなければ、その日に見ることはできません。このため街のバス、市電は夜は24時まで動いています。つまり勤務が終わってから楽しむという生活を現わしています。

テレビは或る程度普及していますが、日本のように猫もシャクシもというように沢山はありません。チャンネルも2局で、夕方の18時頃から24時まで映像を送っているようです。

(以下次号)

スウェーデンの農家住宅

